



事例で学ぶ 歯科衛生士の倫理綱領

日本歯科衛生教育学会 編

医歯薬出版株式会社

倫理綱領ってなんだろう

1.なぜ「倫理綱領」を学ぶのか

歯科衛生士を志す理由は、人それぞれあります。人の役に立ちたい、医療に関わりたい、手に職をつけたい、あの憧れの歯科衛生士になりたい…いずれも立派な動機です。

歯科衛生士という職業には、歯や口の健康に関する知識や技術にとどまらない医療従事者としての責任と信頼が求められます。患者の身体に直接触れ、生活や人生に関わる職務であるからこそ、社会からの信頼が不可欠です。その信頼の基盤となるのが倫理です。倫理とは何か。一言で言えば「人として、医療従事者として、いかに振る舞うべきか」という指針です。さらに言えば、「自分がどのような歯科衛生士でありたいか」を考える営みでもあります。

歯科衛生士には「倫理綱領」が存在します。これは、歯科衛生士が専門職として守るべき基本的な考え方や行動の指針をまとめたものです。

本書では、歯科衛生士の倫理綱領を事例とともに学びながら、「自分ならどうするか」「どのような歯科衛生士になりたいか」を考える契機とするその第一歩として、「倫理綱領ってなんだろう?」という問いに向き合うことが重要です。

臨床現場に出る前の学生にとって、倫理という言葉は抽象的で実感が湧きにくいかもしれません。けれども今の段階から、倫理綱領を学び、考える力を育むことが、将来の自分を支える礎となります。

ポイント
1

歯科衛生士の倫理綱領には、専門職として果たすべき責務が明文化されている



2. 倫理綱領とは何か

1) 「綱領」とは何か

綱領とは、物事の最も重要な要点や、団体の基本方針を示すものです。このような根本的な考え方は、社会生活のなかで身近に存在しています。例えば、学校の校訓や教育理念、企業の経営理念や行動指針などがそれに該当します。これらは、組織が何を重視し、どのような姿勢で社会と関わるのかを示すものであり、法的拘束力はありませんが、構成員が共有する心の約束です。

このまま訓練してもいい…？

登場人物：

DH ききょうさん (中堅5年勤務)

利用者 Aさん (83歳男性)



Aさんは、1年前に脳梗塞を発症し、退院後は自宅にて療養中です。
ききょうさんは、歯科訪問診療でAさんを担当しています。摂食嚥下機能に麻痺が残っていたため、訪問時に口腔機能訓練も行っています。



thinking
POINT

1. Aさんは、なぜ訓練したくないのでしょうか。
2. ききょうさんは、どのようにしたらよかったのでしょうか。

どうしよう、失敗しちゃった!

登場人物:
DHさくらさん(新人)
野山先生(院長)
患者Hさん(54歳男性)



thinking POINT

1. この場面の問題点は何でしょうか。
2. Hさんの気持ちを考えてみましょう。
3. さくらさんはどうしたらよいのでしょうか。

13

条文

もっと自分をレベルアップさせたいと 思って頑張っているのに…

登場人物:

DHさくらさん(新人)

DHゆりさん(チーフ)



thinking
POINT

1. さくらさんの気持ちを考えてみましょう。
2. さくらさんはどうしたらよかったのでしょうか。
3. ゆりさんは先輩としてどのようにしたらよかったのでしょうか。

事例検討

事例を使って、歯科衛生士がとるべき行動を考察していきましょう。

野山歯科医院に「歯がすごく痛いからすぐ診てほしい」と、急患が来ました。頬が少し腫れて痛そうです。その日は受付係が休んでおり、歯科衛生士のききょうさんが対応しています。診療室では、野山院長と歯科衛生士のすみれさんが患者の治療中でした。待合室には、次の予約の患者が待っています。



事例の 進め方

step 1. 全体の状況を把握する。

事例の事実関係を明確にしましょう。ありのままの状況を書き出して、何が起こったのかを整理しましょう。

step 2. 登場人物等の思いを整理する。

それぞれの思いを考えてみましょう。

step 3. 事例に対して歯科衛生士がとるべき行動を考える。

対象のニーズに対して、歯科衛生士の責任の観点から歯科衛生士の行動を考えてみましょう。

step 4. 根拠となる関連条文を考える。

歯科衛生士の行動の根拠となる「歯科衛生士の倫理綱領」条文を書きだしてみましょう。